

# チェルノブイリ通信

<https://www.cher9.org/>

NPO法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F  
TEL/FAX: 092-260-3989  
E-mail: jim@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.

118

## 特集 2019年度ベラルーシ訪問レポート②

CONTENTS 特別寄稿～移動検診チーム合同調査報告～ / 福祉工房「のぞみ21」スタッフ紹介 / コラム ベラルーシの一日 / お礼～古本募金きしゃぼん～ / ベラルーシ訪問のお知らせ / 2020年度総会報告 / 開催予告：リュドミラさん&アンナさん来日講演会 / 支援者のお名前とメッセージ



ベラルーシの福祉工房「のぞみ21」スタッフの皆さん (2019年9月、ベラルーシ)

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？  
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座	01770-1-65328
	他の金融機関からは 一七九支店 (当) 65328
楽天銀行	ジャズ支店 (支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店 (支店番号106) (普) 1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	

特別  
寄稿

# 2019年ブレスト州立内分泌診療所 移動検診チーム合同調査報告

獨協医科大学国際疫学研究室

木村 真三



診療所の外観(上)とエコー検査室(下)



診療所のドクター(上)  
正面玄関を入った受付には、たくさんのカルテが保管されている(下)

## ■内分泌診療所の業務について

いつもなら、すぐ側で通訳をしてくださっている山田英雄先生がいない中で同行調査をしなければならぬ不自由さに耐えて聞き取りをしてみましたので報告いたします。決して山田先生の代わりをしてくださった田中仁さんがお粗末だという訳ではありません、彼なりに相当頑張られていたの言うまでもありませんが、やはり旧ソ連時代の医学教育を受けた山田先生の右に出る者はいないということを嫌という程、思い知らされたというべきです。

さて、昨年9月18日、いつも通り内分泌診療所でのアルトゥール所長との面談から始まりました。読者の皆様には内分泌診療所が担っている業務についてご説明いたします。この地域は、もともと内陸部であるため海洋中に多く存在するヨウ素が不足している地域でした。そのため甲状腺肥大など甲状腺に疾病を持つ人々が多い地域

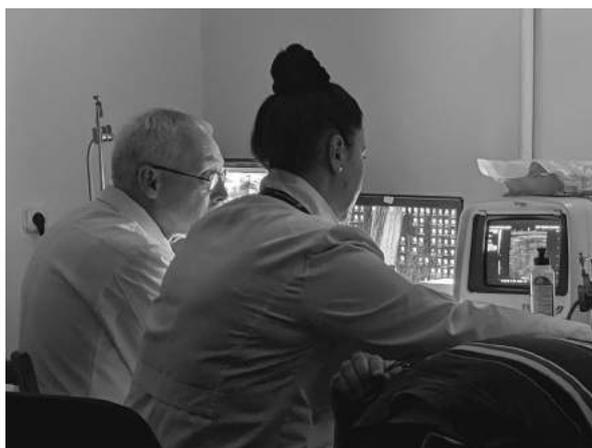
でもありました。そのため全ブレスト州内で甲状腺検査を実施しています。小児、大人の検診を行っており、時には3歳の子供にも穿刺吸引細胞診を行うこともあります。小児の場合には、小児内分泌科で検査を受け、異常があれば内分泌診療所に送られてきます。もし、甲状腺がんが見つかった場合、ミンスクにある国立悪性腫瘍センターに送られます。現在、18歳以下の人口は27万人程ですが、そのうち2〜3人に小児甲状腺がんが見つかっています。10万人あたりにすると約1人の割合で出現しているといえます。

この他、内分泌疾患で最も重要な疾病である糖尿病についても検査を行っています。糖尿病はベラルーシでも大きな問題となっており、ブレスト州でも10年前は州人口140万人に対し2万人程度でしたが、現在は、州人口140万人に対し4万5000人に増えています。こうした疾病に関わる全ての医療費は無料であることを付け加えておきます。

今回の聞き取り調査は、州都ブレスト市と同州第2の都市であるピンスク市で行いました。ピンスク市で



ピンスク中央医療診療所の外観



2019年9月、同行取材を行った移動検診チームの様子。受診者は10代の若者から高齢者まで幅広い世代だった

は、ピンスク中央医療診療所の全面的協力により行われました。

### ■ピンスク中央医療診療所の概要

2004年までチェルノブイリ小児センターと称していました。いまでも、チェルノでの障害をおった子供達の病院でした。現在も、チェルノブイリの影響があるような患者は本病院を訪れるそうです。甲状腺検査はピンスク中央病院で行われ、穿刺吸引細胞診はブレスト内分分泌診療所、そして手術が必要な場合、ミンスクのベラルーシ国立卒後教育医学アカデミーに送られます。

診療所は成人と小児専門病棟に分かれており、外科はなく、糖尿病などの内科専門で、手術が必要な場合はブレスト市かミンスク特別市に送られます。病床数は40床ですが、ピンスクの小児内科医では、0歳から診察を行い、診察技術はミンスクに劣らないと言われていました。

### ■甲状腺検査はいつ行う？

ブレスト州はもとよりベラルーシ国内での甲状腺検査は節目検査が主な検診時期となります。それ以外に、病気等で病院を受信した際に、触診により甲状腺に異常がないかを確認されます。

節目とは、新生児検診、3歳〜4歳時における幼稚園入学のための検診、6歳時の小学校入学前

診、10歳時の中学入学前検診、そして14歳時の専門学校、高校入学前検診です。検査内容は触診およびホルモン検査を行います。異常があれば超音波検査、そして異常があれば必要に応じて穿刺吸引細胞診を行います。

これ以外にも、妊娠時に検査を受けることはよくあります。また、事故当時0歳から18歳以下だった危険群、事故当時19歳から40歳以下だった危険予備群を対象に州の移動検診が行われます。しかしながら、移動検診では、対象者以外でも希望する人は誰でも年齢に関係なく受診することができます。

現在では、移動検診では甲状腺の超音波診断以外にも血液検査による糖尿病、がん年齢を迎える女性たちに視触診による乳がん検診なども行われています。

### ■甲状腺がん手術を受けた方への聞き取り調査

聞き取り調査の条件は、チェルノブイリ原発事故以前に生まれた方が対象です。

インタビューの内容は、性別、現在の居住地、出身地、発見当時の腫瘍の大きさ、手術を受けた年齢、術後の経過、家族構成、近親者のがん経験者、同級生の甲状腺がんの有無などを聞き取ります。

今回は紙面の関係で全ての方々の結果をお伝えすることができませんので、調査地域で特徴のある2例を紹介いたします。

ブレスト市の場合(男性1名、女性7名、同級生で甲状腺がんが見つかった方は8名中1名、1979年生まれ、2014年35歳のとき手術。二人の女性と1人の男性の同級生、不思議に35歳のとき見つかる。濾胞がん1名、7名は乳頭がん)

◆イリーナさん(1977年1月22日生まれ)

- ・居住地:ブレスト市在住
- ・出身地:テームイ村(ブレスト市の2km先にある)
- ・腫瘍発見当時の大きさ:18×18×27mm  
(本人の感想:ちようど良い時期に手術を受けたと思う、腫瘍は小さかった。)

・発見時期と発見理由:

2009年、32歳のとき、下の娘を妊娠中に甲状腺の検査も受けておこうと内分泌診療所を受診し、触診により発見される。すぐに穿刺吸引細胞診、ミンスクで手術を受ける。

・術後の経過:

8月に子供を産んで(帝王切開)、3ヶ月後に手術、授乳は禁止。育児休暇後、復職した。第3グループの身障者として登録、全ての薬が無料となる。

・職業:裁判所勤務で平日4日間、土日のいずれか1日勤務の5日勤務

・発見された時の気持ち:

発見当時はそんなに怖くなかった。理由は、内分泌診療所が有名で信頼していたから。

・現在の甲状腺ホルモン投与量:チロキシ150mg/日

・家族構成:主人、21歳と10歳の娘

・家族・近親者の甲状腺がん:

イリーナさんが手術を受けた後、家族も甲状腺検診を受けた。その結果、母親は甲状腺の良性腫瘍が見つかった。

・同級生で甲状腺がんの手術を受けた人:

同じ村では、私以外ない。

ピンスク市の場合(男性1名、女性3名、同級生に甲状腺がんはいなかった。全て乳頭がん)

◆ナジェージュダさん(1983年5月21日生まれ)

- ・居住地:ピンスク市
- ・事故当時:ピンスク地区コヴニャーチン村(ピンスク市から25km)
- ・手術時期:1996年6月12日13歳で1回目の手術、1997年1月29日の2回目の手術(甲状腺全摘)

・発見理由:

96年偶然見つかった。保養所にいた時、母親に甲状腺センターで見てもらいましたよといわれ、触診されたところすぐにピンスクに送られた。ピンスクに送られ穿刺吸引細胞診を行ったところ2日後に手術を行った。

・術後の経過:

最初の手術が行われた年の12月に術後の治療のため訪れたドイツで甲状腺がんが見つかり、97年でピンスクで2回目の手術を行った。

・術後の経過:

甲状腺手術のあと、声がかすれていた。5〜6回ドイツで放射性ヨウ素治療をおこなった。

・甲状腺がん発見当時の気持ち:

ストレスはそれほどなく、子供だったので勉強の方がストレスだった。

・家族構成:ご主人、11歳、4歳半の息子

・家族・近親者の甲状腺がん:

近親者には甲状腺がんは彼女のみ、他のがんもない。母親に甲状腺肥大があるが、手術もしていない。

・同級生で甲状腺がんの手術を受けた人:

近い年にはいない

・気をつけていること:

食事はヨーグルト(トヴオーラック)を飲むようにしている。

・睡眠時間:8時間

以上、甲状腺がん多発地域であるブレスト州内でも州の全人口からすれば割合からすれば、5000人に一人程度となります。思ったほど、甲状腺がんの方に会えることは少ないのがわかります。今後も聞き取り調査は重要なので引き続き継続していかねばなりません。ただし、ブレスト州の人口を約140万人とすると約280人が甲状腺がんとなります。2010年の男女計の甲状腺がん罹患率は、人口10万人あたりアメリカが約15人、韓国が約60人、日本が約8人となっています(環境省HP:放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料より)。これよりはずっと多い数であることも付け加えておきます。



# 希望に満ちた新しい世紀を目指して 福祉工房「のぞみ21」 スタッフ紹介



昨年9月のベラルーシ訪問では、ベラルーシ南部のゴメリ市にも足を運び、原発事故の被災者や障がい者が働く福祉工房「のぞみ21」への取材を行いました。スタッフの皆さんをご紹介します。

## ■福祉工房「のぞみ21」について

ベラルーシ南部にあるゴメリ市の福祉工房「のぞみ21」の木工品(マトリョーシカ、木箱など)やリネン製品(キッチン雑貨、テーブルクロスなど)は、チェルノブイリ原発事故の被災者や障がいを持つスタッフたちが、それぞれの体調に合わせて、一つ一つ丁寧に作っているものです。

この工房は、息子・故アレグさんの白血病を機に、障がいや病気を持った人への差別・偏見があることを肌身で感じたナターシャさん(写真右下の女性)、故ステパンさんご夫妻によって、アレグさんと同じ困難な状況にある人々が明るく働くことのできる環境づくりを目指し、1995年に設立されました。

チェルノブイリ医療支援ネットワークでは1998年から「のぞみ21」と交流を持ち、運営カンパの呼びかけや商品購入を通じて支援を行っています。

## ■ここ数年は厳しい運営が続く

現在工房はなく、スタッフが各家庭で作業をしています。10年前までは景気もよく、スタッフ数も30名を超えてい

たそうですが、現在は中国製やロシア製の安価な商品(刺しゅう模様がプリントされている製品。「のぞみ21」では手縫いの刺しゅうを施しているため、どうしても時間とコストがかかってしまう)に押され、国内でも商品の売れ行きは思わしくないとのこと。そのため現在は、スタッフの生活を維持できるほどのお給料を支払うことができないため、各自が別の仕事をしたり、仕事以外の生活の一部として制作に関わっているそうです。

厳しい状況ではありますが、昨年9月のベラルーシ訪問時には、かつて工房があった場所を一日だけ借りて、チェルノブイリ医療支援ネットワークとの友好20周年を記念したパーティーを開催してくださいました。そのときの取材を通して、スタッフの皆さんの温かい人柄や制作への思いに触れることができました。なお今回の訪問時に商品の買い付けを行った他、新たに約1000ドル分の注文をしており、4月に納品される予定です。

今度とも運営カンパや商品購入を通じて「のぞみ21」への支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 福祉工房「のぞみ21」スタッフ紹介

### ①ナターシャさん (1954年5月17日生まれ)

ナターシャさんはゴメリ州で生まれ育った（現在はミンスクで暮らす）。事故当時は32歳。爆発事故のあった1986年の4月26日から5月9日までは普段通りの生活をしていました。

息子のアレグ（1977年8月9日生まれ）さんは1998年12月に甲状腺がんで亡くなった。アレグさんは当時、ゴメリの大学でドイツ語を学んでいた。エコー検査で見つかった甲状腺の腫瘍が肥大化し、悪化していった。同年9月にドイツの病院で検査したところ、甲状腺が肺に転移していることがわかった。手術で甲状腺を全摘し、放射線治療を受けたが上手くいかなかった。また娘のイーナさん（1973年12月28日生まれ）は、2005年に胃がんで亡くなった。



各自のペースに合わせて、  
ひとつひとつ心を込めて制作しています。  
皆さんからの温かいご支援をお待ちしています！

②



③



### ②エレナさん (1970年9月14日生まれ)

裁断や裁縫など、全ての作品制作に関わっている。

### ③エレナさん (1977年5月28日生まれ)

刺しゅうを担当。2001年に経営者のナターシャさんとともに来日。自然が気に入った。



### ④ベアラさん (1951年12月24日生まれ)

以前は刺しゅうを担当していたが、目を悪くしたため制作ができなくなった。

手元の写真は、娘のレーナさん一家。

### ⑤セルゲイさん (1973年10月20日生まれ)

重度脳性まひのため、片腕しか動かない。

木工を担当。現在は仕事をしていない。

家では犬とウサギを飼って楽しく過ごしている。

④



⑤





⑥アレーシヤさん (1978年8月1日生まれ)

子ども服やテーブルクロスなどのミシン縫製を担当。

夫のイーゴリさん、11歳のニキータくん、3歳のエレナちゃんと暮らす。



⑦アーラさん (1977年5月8日生まれ)

レース編みが得意。小さいものは一日で、大きなものだと一週間かけて制作する。

19歳のアレクサンドラさん、12歳のアンゲリーナちゃんと暮らす。長女のアレクサンドラさんは現在音楽の専門学校で講師をしている。



⑧オリガさん (1985年2月4日生まれ)

木工品の絵付を担当。デザインで苦勞することはないが、精神疾患があるため、気持ちを入れるのが大変。

⑨スベトラーナさん (1973年10月8日生まれ)

縫製を担当。作業に夢中になって時間を忘れてしまうこともある。25歳になる娘のカーチャさんは現在美容師として働いている。



⑩タチアナさん (1976年8月3日生まれ)

会計を担当。息子のヤロスラフくん (写真右) は現在14歳。クラスでチェスが一番上手。



⑪ニーナさん (1954年1月1日生まれ)

経営者のナターシャさんとは幼なじみ。同じ小学校に通った。ナターシャさんの不在時などに工房の運営のサポートをしていた。



1月だより

## 原発事故処理作業に携わって



インタビューに協力してくださったヴラジーミル氏。胸元にあるのは、チェルノブイリ原発事故処理の勲章



真冬のベラルーシで今回インタビューをさせてもらったお相手は、1986年のチェルノブイリ原発事故当時に内務省から現場責任者としてゾーンへ派遣されたヴラジーミル・ヴラジーミルヴィッチ氏です。郊外にある彼の木造の家を拝見させてもらった後、長男のユーリーさんが経営する会社敷地内に設けられたロシア式サウナ付きの家にご招待いただきました。

### ■まずは自己紹介をお願いします。

私の名はヴラジーミル。1952年ベラルーシ西部のニヤスビシユ(ミンスタ州)生まれです。現在は年金生活者だが、不動産、産業・工業、生活日用品を扱うBBUグループという会社の運営をしています。

### ■では、チェルノブイリ原発事故当時のことを振り返っていただけますか。

当時、私はベラルーシ内務省中央機関で次長として勤めていました。役職としては警察署大尉でもありました。事故発生から4日ほど経った5月1日に前に省内でもこの悲劇のことが伝わりました。ただ事故が起こったのがウクライナの領土内だったこともあり、最初の一週間はベラルーシ(当時ソビエトの共和国の一つ)側から事故処理作業に職員が派遣されることはありませんでした。しかし放出された放射能の約80%がベラルーシ領土内に広がり(残りの20%はロシア・ウクライナの州に蔓延)、私が勤めて

いた内務省からも職員が送られ、事故現場で住民達の避難補助にあたることになりました。

私自身も事故発生1ヵ月半後に派遣され、現場で指揮をとることになりました。人々の避難方法を組織する作業班に物質面や技術的な支援を管理する責任者として、10〜30 km圏内で72日間の務めを果たしました。当時、事故のあった原子力発電所から10 kmまでの範囲が《疎外ゾーン》、30 kmまでを《分離ゾーン》と区分されていました。

健康に悪影響が及ぶとされる25ベル(生物学的レントゲンの値)を超える放射能数値をあびないように、隊員は一定の時間おきに交代でゾーンに出入りして勤めていました。他にも道路整備、共同生活の規律指導、火災予防等の安全保障に各隊が取り組んでいました。人々を精神的に励ますことや我々の支援・指導がしっかり機能しているかを点検することも大事な任務でした。基本的な仕事としては、現地の安全・安定した状況を確保することでした。住民は身分証明書と1〜2日分の食料・水分以外は何も持たずに緊急避難移動を余儀なくされたという報告も受けていました。現地では日本からの団体に会ったこともあります。

### ■事故現場での任務を終えてミンスクに戻った後、健康生活に支障はありましたか？

72日間の責務を果たした後、また内務省中央機



サウナ室の暖炉の前で

関で引き続き次長として務めました。事故当時、私の専門は財政でしたが、汚染地域へ派遣されることも拒みませんでした。私の友人で医療分野の専門家も、放射能の影響の恐ろしさを知りながらも現地での支援活動を引き受けました。しかし、現在ブレスト在住の彼は第一級の障害者です。他にも、一緒に派遣された仲間の多くは若くして亡くなっています。私自身、ミンスクに帰ってから6度、医療機関へ心臓の治療に送られました。5年間はチェルノブイリ事故による病気の障害者と認定されましたが、1999年以降は甲状腺等の腫瘍癌以外の病気は原発事故の後遺症でないとみなされました。ただ、66歳の今もこの通り特に大きな問題もなく健康的な生活を送っています。

■では、2011年に日本で起こった福島第一原発事故について思うこと、そして日本の方々に復興へのアドバイスをお願いします。

そもそも原発事故というのは、科学技術の発展過程で起こりうる恐ろしい出来事で、人類を滅ぼしてかねない放射能は目に見えない敵のようなものです。ただ21世紀の現在、放射能というのは、我々が常に闘っていかなければならない大きな問題の一つです。私が知っている日本人像は、寄り添って協力し合い、一つになって困難に立ち向かってく母親愛にあふれた国民です。重要なのは気をしっかり持ち、精神的にも健康であること。そして明るい未来を信じ続ければ、どんな問題も克服できるはず。放射能も恐れるに足らず！

やさしく微笑みながら、こう締めくくってくれたヴラジミールさんは、この日も100℃以上のサウナ室を行き来して汗を流します。その後、立派に育った息子さん達に葉っぱでたたかれながら、外に雪をあびにいくか、冷水を頭からかぶります。この伝統的なロシア式サウナで健康な生活を送っています。

田中仁（たなかひとし）

ベラルーシ国立大学在学中から、フリーランスのジャーナリスト、通訳として国内外の新聞や雑誌で活躍中。ミンスク在住。

**お礼**

**古本募金きしゃぽんを通じてのご寄付をありがとうございます**

2020年1～2月の期間、古本募金きしゃぽん（運営：嵯峨野株式会社さま）を通じて、計15件・44,586円のご寄付をいただきました。誠にありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。

< [https://cher9.org/donation/secondhand\\_book/](https://cher9.org/donation/secondhand_book/) >

**お知らせ**

**ベラルーシに行ってきます！**

ベラルーシ共和国内分泌学会に参加するため、獨協医科大学の木村真三先生とともに、今年4月にベラルーシを訪問予定です。チェルノブイリ医療支援ネットワークからは、理事長の寺嶋と事務局長の川原が参加予定です。

**日程**

**2020年4月19日(日)～4月28日(月) ※予定**

※新型コロナウイルスの影響により訪問中止となる可能性もあります。

# 通常総会報告

2月22日(土)、福岡市人権啓発センター・交流室にて、2020年度通常総会を開催し、前年度の事業報告・決算報告および今年度の事業計画・予算、役員の変更、定款の変更についての協議、承認が行われました。前年度の事業報告および決算報告ならびに今年度の予算と運営体制について簡単に紹介させていただきます。



## 1 チェルノブイリ原発事故の被災者及び被災地に対する支援事業

### ■ベラルーシ訪問事業

◎期間：2019年9月14日～10月1日

◎訪問先：ベラルーシ赤十字、ミンスク10番病院、プレスト州立内分秘診療所、プレスト州立病院、ピンスク中央病院、他

◎参加者：木村真三(獨協医科大学)、田中仁(通訳)、和田幸策(理事)、川原秀之(理事・事務局長)、三島さとこ(監事)

### ■被災者と障がい者による福祉工房「のぞみ21」支援事業

◎活動支援、木工品やリネン製品の仕入、日本国内での販売

## 2 日本国内での原子力災害などによる被災者及び被災地に対する支援事業

### ■東日本大震災の被災地訪問調査

◎講演会への参加(2019年3月9日)

「第2弾 しんちゃんに聞こえ！」「いまさらきけない」ハウシヤノウのはなし

◎福島県双葉郡浪江町の帰還困難区域視察

## 3 被災者及び被災地の現状を周知するための普及啓発事業

### ■「チェルノブイリ通信」発行事業(年4回発行)

◎発行時期：4、7、10、12月

◎発送部数：約1700～1900部(メール配信を除く)

### ■イベント企画・運営事業

《ベラルーシ医療専門家による来日講演会》

◎来日期間：2019年5月15日～26日

◎開催地域：福島市、郡山市、栃木県下都賀郡壬生町

### ■その他の情報発信事業

◎団体ウェブサイトのリニューアル、情報発信、イベント等での活動紹介

## 4 フェアトレード事業

■チェルノブイリ支援コーヒ、紅茶の販売

- 理事長 … 寺嶋可南子
- 副理事長 … 和田幸策
- 理事 … 河上雅夫、中山悠、川原秀之、小川峰湖
- 事務局長 … 川原秀之
- 監事 … 三島さとこ



福島訪問調査 (3月)



来日講演会 (5月)



ベラルーシ訪問 (9月)

2019年度決算書(2019/1/1~12/31)及び2020年度予算書(2020/1/1~12/31)

(単位：円)

科目	2019年度決算		2020年度予算	
経常収益				
1. 受取会費	69,000	69,000	60,000	60,000
2. 受取寄付金				
活動支援金	7,217,387		6,500,000	
のぞみ21カンパ	44,000		65,000	
雪だるま3号カンパ	55,000		40,000	
震災支援カンパ	1,543,241	8,859,628	138,000	6,743,000
3. 事業収益				
のぞみ21支援事業	197,746		140,000	
フェアトレード事業	561,260	759,006	600,000	740,000
4. その他収益	12,038	12,038	7,000	7,000
経常収益計		9,699,672		7,550,000
経常費用				
1. 事業費(※)				
訪ベラ事業	7,844,909		4,947,700	
のぞみ21支援事業	261,576		215,000	
震災支援事業	671,462		100,000	
会報発行事業	1,727,450		1,815,900	
イベント企画・運営事業	1,911,511		1,815,900	
その他の情報提供事業	1,840		15,000	
フェアトレード事業	543,800	12,962,549	645,500	9,555,000
2. 管理費				
人件費	10,454		0	
その他経費	127,946	138,399	124,000	124,000
経常費用計		13,100,948		9,679,000
当期経常増減額		-3,401,276		-2,129,000
税引前当期正味財産増減額		-3,401,276		-2,129,000
法人税、住民税及び事業税		71,000		71,000
当期正味財産増減額		-3,472,276		-2,200,000
前期繰越正味財産額		23,097,131		19,624,855
次期繰越正味財産額		19,624,855		17,424,855

※) 人件費(給料手当、雑給、法定福利費、支払報酬)を含めた金額です。また水道光熱費や支払地代家賃等の共通経費も按分されています。

開催  
予告

リュドミラさん、アンナさんの来日講演会を開催します！

心理カウンセラーのリュドミラ・ウクラインカさん(写真右)と娘のアンナさん(同左)を日本へお招きし、講演会を実施します。詳細が決まり次第、団体ウェブサイトや通信などでお知らせいたします。どうぞお楽しみに！



日程 2020年8月19日(水)~9月1日(火) ※予定

訪問先 福島県、京都府、広島県、福岡県 ※予定

# たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

## 合計

569,789円

- \*活動支援金 469,789円
- \*のぞみ21カンパ 10,000円
- \*雪だるま3号カンパ 0円
- \*東日本支援カンパ 50,000円
- \*おまかせカンパ 37,000円

(2019年12月～2020年2月分の寄付内訳)

## ●口座受付寄付

相川美智子 浅原望樹 稲毛修子 井上泰子 榎本みつ枝  
音楽グループ「クリミテイ」 川辺希和子 佐藤和子 高橋  
武三 田中京子 田中直子 中村幸枝 西嶋香穂子 野中孝  
子 引田良子 古本募金きしゃぼん(運営:嵯峨野株式会社)  
松井岩美 森悠子 森戸春江 友愛幼稚園 和田由理 和田  
茉莉恵

## 〔都道府県別〕

- 【福島県】1名 【富山県】1名 【東京都】2名
- 【神奈川県】1名 【愛知県】1名 【大阪府】1名
- 【兵庫県】2名 【鳥取県】2名 【島根県】3名
- 【広島県】2名 【山口県】3名 【福岡県】32名
- 【佐賀県】4名 【長崎県】1名 【熊本県】3名
- 【大分県】6名 【鹿児島県】3名

計 68名(匿名含む)

※通信(お名前掲載を)ご承諾いただいた方のみ、お名前を掲載させていただきます。

## ●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 内野千鶴子 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勲子 藤本孝子 湊田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

計 117名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、どうもありがとうございます。皆さまよりお預かりしたご寄付は、チェルノブイリ被災者医療支援、福祉工房のぞみ21支援、移動検診車雪だるま4号購入の積立、東日本震災被災者支援、事務費用等にあってさせていただきます。

## 皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

- 少しですけど役に立てばうれしいです。●息長い支援に感謝します。●すべての子どもたちに良いクリスマスがおとずれますように。●少しですが、役立てて下さい。●コーヒー、紅茶ありがとうございます。オンラインピックを使つての放射能隠しが一層すすむ事になりそうです。●お祈りしています。少しですが、役立てて下さい。●希望をもって過していただけることをお祈りしています。●少額ですが、いつもありがとうございます。●本年もどうぞ宜しくお願い致します。今年も総会に参加させていただきます。

## 講師派遣

**講師** 派遣を行っています。お友里、学校の授業などでチェルノブイリ現協会を開催してみませんか？  
小中学校の総合学習、大学の講義などへも講師派遣実績あり。まずは一度、事務局までお気軽にご相談ください。

## お知らせとお願い

**振込** 用紙は毎号同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

## 編集後記

今年はずいぶん寒い日が少なかったのが現実です。しかし私は寒い冬が苦手だけど、身が引き締まる朝のひとときが何ともいえない至福でした。まもなく春が訪れますが、それも嬉しいものです。さて、福岡の桜開花は来週の17日火曜日になると天気予報では伝えられています。暖冬の証を突きつけられたニュースでした。季節の移ろいを味わいたいと思う年齢になったようです。(H.K.)

活動の様子や通信バックナンバーなどはホームページをチェック!

チェルノブイリ 医療支援

検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています